

CKD患者における腎機能の変化に関する検討

慢性腎臓病 (chronic kidney disease : CKD) 患者は、ステージ3～5の患者が日本で1千万人以上に達し、透析患者数も2011年末には30万人を超えるなど増加の一途をたどっている。中でも日本人は、CKD患者の中でも腎機能の低下した患者割合が高い傾向にあり、腎機能の低下は心血管疾患イベント発生や死亡のリスク因子となりうることが知られている。そのため、慢性腎臓病の発症予防および悪化防止は、健康増進施策上でも重要な課題である。

ただし、CKD患者においては、その背景因子（既往歴、生活習慣など）や並存疾患、血圧や腎機能の状態など様々である。そのため、腎機能の低下はイベント発生の原因となることは示唆されているものの、これらの詳細な関係性まではまだ明らかになっていない。

今回、海外の先行研究事例などを参考に、CKD患者における腎機能の変化と腎予後および心血管疾患イベント発生等との関係性を検討するうえでの論点や課題を整理した。これらをもとに、今後の課題研究テーマについて検討を進めていきたい。